

第14回 尾瀬国立公園協議会 次第

日時 平成29年3月8日(水) 14:00~17:00

場所 明治安田生命さいたま新都心ビル 18階

関東地方環境事務所 会議室

1 開会

2 あいさつ

3 議事

(1) 尾瀬ビジョンの基本方針に沿った諸対策について

○尾瀬国立公園適正利用の推進に関する小委員会について 【5分】

- ・小委員会の名称の変更及び位置づけについて

○「尾瀬の多様な魅力を楽しむための自動車利用のあり方」に係る取組みについて 【15分】

-群馬県における利用分散等の取組みについて (群馬県)

-鳩待峠駐車場の整備事業について (東京パワーテクノロジー)

-平成28年度富士見下から富士見峠間の身体障がい者等の利用について (片品村)

○第4次尾瀬総合学術調査について (尾瀬保護財団) 【5分】

○尾瀬シカ対策について (環境省) 【5分】

○尾瀬沼集団施設地区再整備について (環境省) 【5分】

○尾瀬国立公園標識ガイドライン(案)について (環境省) 【10分】

(2) 尾瀬ビジョンの再確認と今後の進め方について (環境省) 【20分】

- ・尾瀬ビジョンの再確認と今後の進め方について

- ・尾瀬ビジョン10年目のレビューと現行の課題についての整理(案)

(3) その他

・檜枝岐村トレイルランニングの開催について (檜枝岐村) 【5分】

・尾瀬における通信環境の整備について (環境省) 【5分】

・尾瀬国立公園協議会規約名簿の変更について (事務局) 【1分】

4 報告

- ・尾瀬国立公園 10 周年記念事業
- ・その他

5 閉会

【配布資料一覧】

次第

構成員名簿・座席表

- 資料 1 尾瀬国立公園快適利用の促進（利用分散等）に関する小委員会について（環境省）
- 資料 2 - 1 尾瀬の多様な魅力を楽しむ利用への誘導ー自動車利用の検討などによる（環境省）
- 2 - 2 群馬県における利用分散等の取り組みについて（群馬県）
- 2 - 3 鳩待駐車場の整備事業について（東京パワーテクノロジー）
- 2 - 4 平成 28 年度富士見下から富士見峠間の身体障がい者等の利用について（片品村）
- 資料 3 第 4 次尾瀬総合学術調査について（財団）
- 資料 4 平成 28 年度 尾瀬シカ対策について（環境省）
- 資料 5 尾瀬沼集団施設地区再整備について（環境省）
- 資料 6 - 1 尾瀬国立公園標識ガイドライン（案）概要（環境省）
- 6 - 2 尾瀬国立公園標識ガイドライン（案）本文
- 資料 7 - 1 尾瀬ビジョンの再確認と今後の進め方について（環境省）
- 7 - 2 尾瀬ビジョン 10 年目のレビューと現行の課題についての整理（案）
- 資料 8 檜枝岐トレイルランニング大会の開催について（檜枝岐村）
- 資料 9 尾瀬における通信環境の整備について（環境省）
- 資料 10 尾瀬国立公園協議会設置要綱（事務局）
- 資料 11 尾瀬国立公園 10 周年記念事業について（財団）
- 資料 12 外来植物対策について（財団）
- 資料 13 沼尻公衆トイレの整備について（尾瀬沼地区運営協議会）

第14回尾瀬国立公園協議会 出欠名簿

※順不同 敬称略

	構成員	出 欠	随行者
1	環境省関東地方環境事務所	所長 笠井 俊彦	出席
2	林野庁関東森林管理局計画保全部	部長 井手 光俊	出席
3	福島県生活環境部	部長 長谷川 哲也	(代理出席) 主任主査 森藤福美
4	栃木県環境森林部	部長 金田 尊男	欠席
5	群馬県環境森林部	部長 井田 由夫	(代理出席) 自然環境課 補佐 竹内伸昌
6	新潟県県民生活・環境部	部長 丸山 由明	(代理出席) 主任 新田はる香
7	檜枝岐村	村長 星 光祥	(代理出席) 企画観光課 和田一雄
8	南会津町	町長 大宅 宗吉	(代理出席) 環境水道課長 野中 英昭
9	日光市	市長 斎藤 文夫	欠席
10	片品村	村長 千明 金造	出席
11	魚沼市	市長 佐藤 雅一	(代理出席) 環境対策室長 大塚宣男
12	公益財団法人 尾瀬保護財団	事務局長 堀越 正史	出席
13	三井物産(株)環境・社会貢献部 社有林・環境基金室	室長 大木 貴嗣	出席
14	東京電力ホールディングス株式会社 リニューアブルパワーカンパニー水利・尾瀬グループ	グループマネージャー 中込 孝二	出席
15	東京パワーテクノロジー株式会社	顧問 松井 敏彦	出席
16	尾瀬檜枝岐温泉観光協会	理事 星 浩彦	欠席
17	南会津町観光物産協会館岩支部	支部長 大山 義幸	欠席
18	日光市観光協会 湯西川・川俣・奥鬼怒支部	事務局長 湯沢 長久	欠席
19	片品村観光協会	事務局長 倉田 剛	出席
20	魚沼市観光協会	事務局長 星 正太郎	出席
21	尾瀬山小屋組合	組合長 関根 進	出席
22	尾瀬山小屋組合	副組合長 平野 昌弘	欠席
23	尾瀬保護指導員福島県連絡協議会	会長 星 一彰	欠席
24	日本野鳥の会栃木県支部	副支部長 遠藤 孝一	欠席
25	片品山岳ガイド協会	副会長 宮崎 勉	出席
26	新潟県自然観察指導員の会	顧問 加瀬 由紀子	欠席
27	公益財団法人 日本自然保護協会	参事 横山 隆一	出席
28	一般財団法人 自然公園財団	代表(専務)理事 阿部 宗広	欠席
29	群馬県立女子大学	名誉教授 斎藤 晋	出席
30	福島大学教授	教授 長橋 良隆	欠席
31	横浜国立大学大学院教授	教授 加藤 峰夫	出席

事務局

	所 属	氏 名
1	関東地方環境事務所 国立公園課	課長 松本 英昭
2		課長補佐 岩浅 有記
3	檜枝岐自然保護官事務所	自然保護官 市塚 友香
5	片品自然保護官事務所	自然保護官 牧野 友香
6		自然保護官補佐 柳澤 美果子
7	公益財団法人 尾瀬保護財団	企画課長 菊地 高士
8		主事 宇野 翔太郎
9	中央開発株式会社 社会開発部	課長 飯塚 功
10		係長 成瀬 研治
11		鈴木 沙耶

第14回 尾瀬国立公園協議会 座席表

平成29年3月8日(水)
 関東地方環境事務所 会議室

出入口						
		事務局				
傍聴・取材者					尾瀬保護財団	
					魚沼市	
		三井物産 社有林・ 環境基金 室				片品村
		三井物産 社有林・ 環境基金 室				片品村
		東京電力				南会津町
		東京電力				檜枝岐村
		東京ハワー テクノロジー				新潟県
		東京ハワー テクノロジー				群馬県
		片品村 観光協会				群馬県
		魚沼市 観光協会				福島県
		尾瀬山小 屋組合長				関東森林 管理局
		片品山岳 ガイド協会				関東森林 管理局
出入口	日本自然保護 協会	加藤 委員	斎藤 委員	関東地方環境 事務所長		

尾瀬国立公園快適利用の促進（利用分散等）に関する小委員会について

【設置経緯】

平成 21 年 8 月 尾瀬サミット 2009

「利用集中」と「大清水の車の乗り入れ」について議論がなされる。

平成 21 年 12 月 第 4 回尾瀬国立公園協議会

利用分散の問題について具体的に議論するための小委員会（ワーキンググループ）の設立を提案し、了承を得る。

平成 22 年 2 月 第 1 回小委員会開催

【設立目的】※第 1 回会議資料抜粋（別添）

特定の入山口に利用者が集中している尾瀬国立公園における利用の分散化による快適利用の促進を図ることを目的として、自動車利用のあり方を中心とした具体的な対応を検討することを目的として設置。

ただし、快適利用の促進の検討にあたっては、大清水から一ノ瀬間のシャトルバスの運行に議論をとどめるのではなく、公園全体を視野に入れて議論することとする。

【今後の小委員会の位置づけについて】

これまで、利用分散を主な議題として検討を行ってきた当委員会だが、委員会設立当初の目的にもあるとおり、尾瀬国立公園全体を視野に入れ、利用分散以外にも適正利用を推進していく上で、近年新たに指摘されている課題等についても広く議論できるような尾瀬国立公園協議会のワーキンググループとして運営していきたい。ただし、利用分散の課題については、引き続き当小委員会の主要な議題として検討を行う。

また、それにともない、委員会の名称を「尾瀬国立公園適正利用の推進に関する小委員会」としたい。

なお、当委員会では規約は策定していない。

【小委員会メンバーの決定】

柔軟に課題を検討する場として、委員会のメンバーも柔軟に参画が可能としていきたい。メンバーの決定については、取り扱う課題に応じて、その課題に関係する実務機関及び、主体を委員会で抽出し、メンバーの承認を得て追加する。

なお、関係する議題が終了した場合、その機関及び主体の意向により引き続き参画するかどうかは選択できるものとする。

尾瀬の多様な魅力を楽しむ利用への誘導

—自動車利用の検討などによる—

目指すべき尾瀬の利用のあり方

尾瀬ヶ原、尾瀬沼、各入下山口など、尾瀬のもつ様々な魅力をゆっくり楽しむ

現状と課題

- ・半数が鳩待峠を往復利用し、利用されるルートに偏りが見られる。
- ・尾瀬内での宿泊率が約3割であるなど、滞在時間が短い。

目指すべき利用のあり方への誘導方針

- (1) 自動車によるアクセスを変えることで、これまでと異なるルート設定を可能にする。
- (2) 低利用入下山口周辺の滞在時間を延長し、利用を促進する。
- (3) 主要な入山口である鳩待峠の利用のあり方を検討する。
- (4) 目指すべき利用への誘導に向けて情報発信していく。

自然環境の保護および主要入山口の国立公園らしい雰囲気重視し、それらを損なわないよう配慮しつつ実施

具体的な方策

これまでの実施内容(平成23～28年度)

今後の実施内容

長期目標

(1) 自動車によるアクセスの検討

以下により、回遊型の利用を促進する。

①一ノ瀬までの車両の運行

大清水・一ノ瀬間の時間短縮により、入下山口としての大清水を利用しやすくする。

②戸倉を拠点とした交通体系の構築
現在、マイカー利用者が鳩待峠を利用する際には戸倉が拠点となるため、他の入下山口から戸倉までのアクセスを容易にする。

(2) 低利用入下山口周辺の滞在時間延長等

低利用入下山口周辺の資源発掘

(3) 鳩待峠の利用のあり方の検討

鳩待峠への車両の進入の規制

(4) 目指すべき利用へ誘導する情報発信

多様な利用のあり方を情報発信

①一ノ瀬までの車両の運行

【環境省】H23・24年度に実施した利用者を対象としたアンケート調査により、交通アクセス変更により、鳩待峠～大清水を回遊・宿泊型で利用する人が、現在の大清水利用者の2割弱にあたる5400人程度(H24年度入山者数と比した場合)増加する可能性があり、多様な魅力を楽しむ利用への誘導に資すると考えられた。

【群馬県】H23～25年度に、大清水・一ノ瀬間で低公害車両運行の社会実験、平成26年度に社会実験を実施。あわせて旧道を通行可能とし、車道開発の歴史について情報発信を実施。

【事業者】平成27年度より営業運行を開始

【環境省、群馬県】平成27年度より低公害車両運行に関するモニタリングを実施Y

【環境省】大清水地区の見どころを利用者に紹介する案内マップを作成し配布した。

【群馬県】鳩待峠第一駐車場への車両乗り入れ制限を行い、車の少ない静かな入山口を現出

・静かな峠の雰囲気を肯定する意見が多かった。

【土地所有者・事業者等】

・第1駐車場への車両乗り入れを全面的に制限(H28～)

・第2駐車場を拡張整備し、メイン駐車場として利用。(H28～)

・第1駐車場の特別保護地区エリアの緑化(H28～)

【環境省】

・利用者が尾瀬に関する情報をどのように得ているかを調査。利用者の多くは旅行会社、行政機関等のホームページ等から情報を得ているが、3割は市販のガイドブックを利用しているなどが分かった。

・尾瀬沼VCでフェイスブックを開始し尾瀬沼周辺の情報を発信。

・セルフガイドを改訂・配布。

大清水～一ノ瀬

○低公害車の運行
・県道の維持管理

【事業者・群馬県】

・運行に関する評価・検証
【環境省・群馬県】

○旧道の整備・利用

○沼田街道、大清水～岩清水間の車道開発の歴史等を情報発信

【群馬県、片品村、事業者等】

鳩待峠

○国立公園にふさわしい静かで落ち着いた環境の整備

・第1駐車場の再整備について、小委員会において検討

情報発信

・回遊型・宿泊型ルートをはじめとする尾瀬の多様な魅力に関する情報発信を行う。【尾瀬関係者】

・小委員会において引き続き効果的な情報発信について検討

大清水～一ノ瀬

○次世代型エコカーへの全面移行
・能力やコストパフォーマンスを考慮したEV、CHV車両への移行など【事業者】

鳩待峠
○国立公園にふさわしい静かで落ち着いた環境の整備

・ビクターセンター機能の整備
・その他必要な整備

情報発信

・回遊型・宿泊型ルートをはじめとする尾瀬の多様な魅力に関する情報発信を行う。【尾瀬関係者】

その他

・発展的な取組

群馬県における利用分散等の取り組みについて (H28年度実施結果、H29実施予定)

群馬県自然環境課 尾瀬保全推進室

尾瀬では、鳩待峠口への利用集中の緩和や、国立公園の回遊型・滞在型利用を促進するため、入山口の交通環境を見直すこととしている。群馬県側では、尾瀬国立公園協議会等関係者の合意のもと、H23年度から鳩待峠及び大清水で利用分散のための取り組みが、関係者の連携によって実施されている。

【概要】

- 鳩待峠口：静かな入山口を実現させるため、第1駐車場に車両乗り入れを制限する社会実験等を経て、第1駐車場の閉鎖、第2駐車場の拡張工事や公衆トイレ整備等を実施。
- 大清水口：鳩待峠から大清水への利用の分散を図るため、群馬県による数年にわたる社会実験や、片品村尾瀬交通対策連絡協議会での承認を経て、H27年度から地元交通事業者が低公害車両による営業運行を開始。
大清水～一ノ瀬間の旧道（会津・沼田街道）を整備し、歩行者に開放。

1 H28年度 実施内容

(1) 鳩待峠口

ア 従来の第1駐車場を閉鎖し、第2駐車場だけの運用が開始された。

【事業主体：東京パワーテクノロジー（株）】

(H26-27年度：第2駐車場拡張工事・公衆トイレ整備済（環境省・群馬県補助事業）

(2) 大清水口

ア 低公害車両による営業運行（2年目）

【事業主体：地元交通事業者】

(ア) 区間：大清水～一ノ瀬間（約3km）

(イ) 内容：

①期間：6月11日（土）から10月16日（日）の128日間

※当初は6月中旬に運行開始予定だったが、全国的な傾向と同様、尾瀬でも異例の少雪と雪どけの早さにより、路面整備と安全確認を早め実施できたため、関係者で協議し開始日が早まった。

②時間：大清水 5時00分発 ～ 一ノ瀬 16時30分発

※8月15日～9月9日の平日、10月11日以降は始発、終発の時間変更あり。

③所要時間：片道約15分程度

④車両：低公害車両（13人乗り、9人乗り、4人乗り） 4台

⑤運賃：大人700円 こども350円

⑥頻度：定時運行（歩行者優先で、速度を抑えて運行）

⑦事業者：関越交通(株)、尾瀬観光カブ(有)、(株)老神観光バス、片品観光カブ(有)

イ 旧道（会津・沼田街道）の開放

【管理者：片品村（H28年度より群馬県から変更）】

低公害車運行期間に合わせて道標等が設置され、登山者に開放された。

2 H28 実施結果

(1) 大清水口 低公害車による運行実績

利用人数 17,576人(1日平均137.3人)

運行回数 3,231回(1日平均 25.2回)



大清水 乗車の様子



一ノ瀬 乗車の様子

※参考 H27年度

利用人数 17,979人(1日平均148.6人)

運行回数 3,336回(1日平均 27.6回)

(2) モニタリング結果

ア 環境影響調査(大清水～一ノ瀬間の車道沿い)

(ア) 概要

昨季に引き続き、現状把握及び今後の着眼点を抽出することを主な目的とし、群馬県尾瀬保護専門委員に依頼し、車両運行期間前(5月下旬)、車両運行期間中(9月中旬)、車両運行期間終了後(11月上旬)の3回、調査を行った。

具体的には、車両待避所における車両や人の踏みつけによる植生への影響、車道と沢が交差する箇所での植生への影響、法面の植^{うえ}木の植生変化、尾瀬以外から移入・拡大する恐れのある植物に対する警戒について、昨季から継続する定点(5箇所※)を中心に調査を行った。

〔※昨季(H27)の調査開始時に、6箇所を定点観察したところ、うち1箇所は地形的に自然変化以外の影響がないことが判明したため、今季調査より定点観察対象から除外した。〕

(イ) 結果

定点(5箇所)及び当該区間全般において、シーズンを通して大きな変化はなかった。

(ウ) 今後について

来季も引き続き、定点を中心に経過観察を行い、植生の変化等を注視する。

また、道路工事の工法等については植生や環境への影響を最小限に抑えるよう、引き続き整備担当部署等と連携し、改善に取り組んでいく。

◇なお、当該区間は自然公園法上の地種区分では第2種特別地域であり、過去の植生調査資料がほとんど無い。また、今回の車両運行以前(昭和年代)からの道路工事や入山者の往来に由来すると推測される外来種や人里植物も、場所によってはすでに生育している状況であるが、現在までのところ、拡大傾向にはない。

イ 利用状況調査（大清水利用者における低公害車乗車率）

平成28年度 利用状況(乗車率)調査結果 ※任意の10日間

6月11日(土)晴れ

区分	入山者数	運行回数	乗車人数	乗車率
大清水→一ノ瀬	363	30	178	49.0%
一ノ瀬→大清水	519	26	191	36.8%
計	882	56	369	41.8%

6月21日(火)曇り

区分	入山者数	運行回数	乗車人数	乗車率
大清水→一ノ瀬	36	6	26	72.2%
一ノ瀬→大清水	75	6	13	17.3%
計	111	12	39	35.1%

7月16日(土)曇り時々晴れ

区分	入山者数	運行回数	乗車人数	乗車率
大清水→一ノ瀬	416	32	254	61.1%
一ノ瀬→大清水	328	24	172	52.4%
計	744	56	426	57.3%

7月20日(水)晴れ

区分	入山者数	運行回数	乗車人数	乗車率
大清水→一ノ瀬	137	20	102	74.5%
一ノ瀬→大清水	194	21	114	58.8%
計	331	41	216	65.3%

入山者数=乗車人数+歩行者数(大清水ゲート徒歩通過人数)

乗車率=乗車人数/入山者数

●平均(10日間)

区分	入山者数	運行回数	乗車人数	乗車率
大清水→一ノ瀬	1,682	170	993	59.0%
一ノ瀬→大清水	1,832	157	930	50.8%
計	3,514	327	1,923	54.7%

8月11日(木)曇りのち晴れ

区分	入山者数	運行回数	乗車人数	乗車率
大清水→一ノ瀬	294	26	197	67.0%
一ノ瀬→大清水	228	22	145	63.6%
計	522	48	342	65.5%

8月23日(火)晴れのち曇り

区分	入山者数	運行回数	乗車人数	乗車率
大清水→一ノ瀬	10	4	8	80.0%
一ノ瀬→大清水	18	3	5	27.8%
計	28	7	13	46.4%

9月15日(木)曇り

区分	入山者数	運行回数	乗車人数	乗車率
大清水→一ノ瀬	63	6	14	22.2%
一ノ瀬→大清水	85	6	16	18.8%
計	148	12	30	20.3%

9月18日(日)雨

区分	入山者数	運行回数	乗車人数	乗車率
大清水→一ノ瀬	100	12	50	50.0%
一ノ瀬→大清水	188	18	133	70.7%
計	288	30	183	63.5%

10月4日(火)曇り時々晴れ

区分	入山者数	運行回数	乗車人数	乗車率
大清水→一ノ瀬	38	13	29	76.3%
一ノ瀬→大清水	53	13	43	81.1%
計	91	26	72	79.1%

10月8日(土)曇り

区分	入山者数	運行回数	乗車人数	乗車率
大清水→一ノ瀬	225	21	135	60.0%
一ノ瀬→大清水	144	18	98	68.1%
計	369	39	233	63.1%

(参考) 平成27年度 利用状況(乗車率)調査結果 ※任意の7日間

6月20日(土)晴れのち雨

区分	入山者数	運行回数	乗車人数	乗車率
大清水→一ノ瀬	214	22	105	49.1%
一ノ瀬→大清水	175	22	99	56.6%
計	389	44	204	52.4%

6月21日(日)曇り時々雨

区分	入山者数	運行回数	乗車人数	乗車率
大清水→一ノ瀬	80	18	54	67.5%
一ノ瀬→大清水	196	19	108	55.1%
計	276	37	162	58.7%

7月9日(木)曇り

区分	入山者数	運行回数	乗車人数	乗車率
大清水→一ノ瀬	47	9	30	63.8%
一ノ瀬→大清水	61	9	37	60.7%
計	108	18	67	62.0%

7月18日(土)雨時々曇り

区分	入山者数	運行回数	乗車人数	乗車率
大清水→一ノ瀬	312	28	198	63.5%
一ノ瀬→大清水	116	16	78	67.2%
計	428	44	276	64.5%

●平均(7日間)

区分	入山者数	運行回数	乗車人数	乗車率
大清水→一ノ瀬	1,491	143	762	51.1%
一ノ瀬→大清水	1,017	109	487	47.9%
計	2,508	252	1,249	49.8%

8月12日(水)曇り時々晴れ

区分	入山者数	運行回数	乗車人数	乗車率
大清水→一ノ瀬	169	17	80	47.3%
一ノ瀬→大清水	160	13	56	35.0%
計	329	30	136	41.3%

9月19日(土)晴れ時々曇り

区分	入山者数	運行回数	乗車人数	乗車率
大清水→一ノ瀬	338	23	159	47.0%
一ノ瀬→大清水	117	9	45	38.5%
計	455	32	204	44.8%

10月3日(土)晴れ

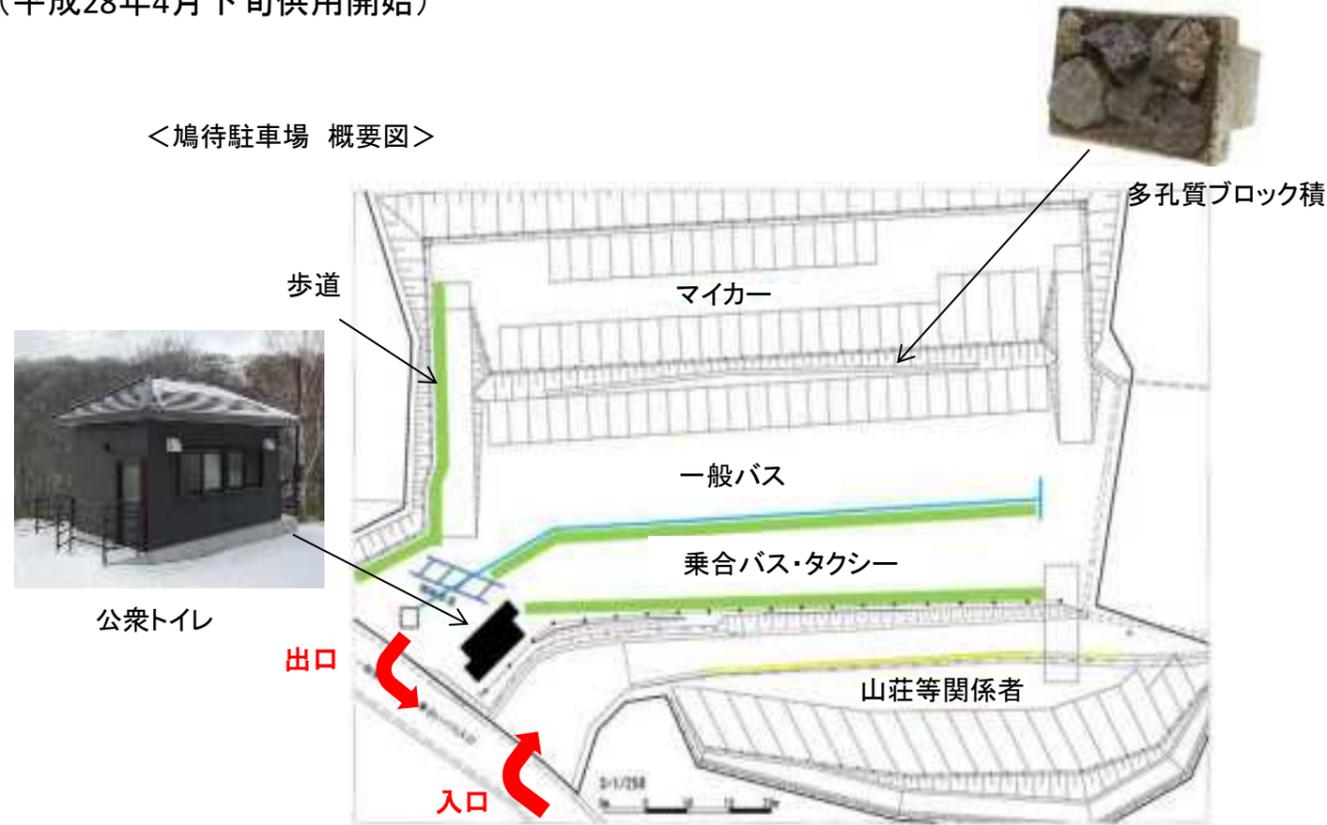
区分	入山者数	運行回数	乗車人数	乗車率
大清水→一ノ瀬	331	26	136	41.1%
一ノ瀬→大清水	192	21	64	33.3%
計	523	47	200	38.2%

鳩待駐車場の整備事業について

平成29年3月8日 第14回 尾瀬国立公園協議会
 東京パワーテクノロジー株式会社
 東京電力株式会社

鳩待第二駐車場拡張工事並びに公衆トイレの設置

◇鳩待峠入山口において国立公園らしい入山口を実現させるため、群馬県・環境省からの補助事業として、鳩待第二駐車場の拡張工事並びに公衆トイレ(有料)を設置した。
 (平成28年4月下旬供用開始)



公衆トイレ



再整備箇所(完成後)



再整備域(完成後)



再整備域(完成後)

鳩待第一駐車場の整備

◇第一駐車場を閉鎖し、入山者が休憩や準備運動をするスペースとして利用するほか、平成28年6月に乗合バス・タクシーの乗降場所跡地付近に一部広葉樹等による緑化を実施し、自然環境の復元を行った。

＜鳩待第一駐車場整備図＞



◎植栽面積 600㎡ (乗合バス乗降所跡地付近)
 ◎土壌は、鳩待第二駐車場拡張工事の際発生した現地の表土を使用した。

◇植栽作業の内容

- | | |
|----------|--|
| 1. 事業主体 | 東京パワーテクノロジー株式会社
東京電力株式会社 |
| 2. 植栽参加者 | 環境省、群馬県、本小委員会委員、
乗合バス・タクシー事業者、尾瀬高校等 |
| 3. 植栽樹種 | ブナ、ミズナラ、ナナカマド(ブナは東電苗畑より提供) |
| 4. 植栽本数 | 100本 |



尾瀬高生らによる植栽



植栽後



休憩ベンチ設置



団体による準備運動

群馬県片品村役場むらづくり観光課 H28.12.14

平成 28 年度 富士見下から富士見峠間の身体障がい者等の利用について 報告

「みんなの尾瀬をみんなで守りみんなで楽しむ」という尾瀬ビジョンの基本理念を基に「富士見下～富士見峠間の身体障がい者等の利用について実施計画書」を策定し実施しております。

1 実施期間

- (1) 平成 28 年 9 月 28 日 (水)
- (2) 平成 28 年 10 月 5 日 (水)

2 実施内容

- (1) 定員
各 募集定員 8 組 16 名
- (2) 行程

日	行 程	食事 1 回
9/28	片品村文化センター駐車場集合 (9 時 00 分) ・ ・ 《タクシー》	朝 ×
	富士見下駐車場 ・ ・ 《タクシー》	
10/5	富士見峠 ・ ・ 《徒歩》 ・ ・ アヤメ平 ・ ・ 《徒歩》	昼 ○
(水)	富士見峠 (昼食) ・ ・ 《タクシー》	
	富士見下駐車場 ・ ・ 《タクシー》	夜 ×
	片品村文化センター駐車場解散 (15 時 00 分頃)	

- (3) 参加代金
19,800 円 (2 名 1 組)
(往復タクシー代 ガイド料金 昼食代 旅行損害保険料 込)
- (4) 旅行業者
片品村振興公社 (株) 尾瀬ツーリスト
(群馬県知事登録旅行業 2-466 号 (一般) 全国旅行業協会正会員)
- (5) その他
看護師・介護士を同伴させ緊急時の体制整備を図りました。

3 参加者

- (1) 平成 28 年 9 月 28 日 (水)
参加者なし
- (2) 平成 28 年 10 月 5 日 (水)
4 名

4 実施結果

(1) 視察会の様子



(2) 参加者及び関係者からの意見

【参加者】

- ・ 実際自分の足で散策でき、素晴らしい風景や高山植物、美味しい空気を体感できて良かったです。また再度訪れたいです。
- ・ 峠の上まで車で連れてっていただき、気軽に雄大な自然を体感でき、とても満足な気分になりました。
- ・ 皆様の気持ちの温かさで大変楽しい旅ができました。
- ・ 距離が丁度よく、スタッフの方々がいて安心でした。
- ・ 木道の整備
- ・ 沼田駅からの専用バス等があると遠距離の方で参加しやすいです。

【関係者】

- ・ 参加者の方に無理のないコース設定でした。
- ・ ガイドさんが先導してくれたので観察しながら歩くことが出しました。
- ・ 擦り傷、切り傷、骨折がおおく予想されるので対応した備品が必要と思われる。
- ・ 救急用品をもう少し充実した内容で準備してもらえると、もっと処置がスムーズにできたのでは。
- ・ ゴミ袋、グローブ、洗浄用の水があると良いと感じました。

5 まとめ

尾瀬の優れた自然環境を保全しつつ適正な利用を図ることができれば、尾瀬ビジョンの理念に繋がり、国立公園のトップランナーとしての尾瀬の役割を果たすことができると考えられます。

また、今後は参加者及びその家族が安心して参加できるような受け入れ態勢を整え、以前尾瀬などに行ったことがあって、以後何らかの理由により行けなくなった方や、普段身近で自然を感じる事があまりできない方にも「尾瀬」を体験していただけるようツアー内容の充実を図ります。

第4次尾瀬総合学術調査について

(公財) 尾瀬保護財団

I 調査目的

- 1 65年前の第1回調査以降実施されていない尾瀬の現在の自然環境を把握するための基礎研究を実施する。
- 2 気候変動が尾瀬の生態系に与える影響を明らかにするための重点研究を実施する。
- 3 密接に関連する基礎調査と重点研究を実施し、将来に向けて生態系の持続的な保全を図るために必要とされる生態系調査システムの構築を目指す。

II 調査期間

平成29年度～31年度(3カ年間)

III 調査実施主体・実施体制

第4次尾瀬総合学術調査団(事務局:尾瀬保護財団)

- 団長:坂本 充(尾瀬保護財団理事、名古屋大・滋賀県立大名誉教授)
- 基礎研究部会 部会長:鈴木邦雄(尾瀬賞運営委員、横浜国大名誉教授)
- 重点研究部会 部会長:岩熊敏夫(尾瀬賞運営委員、北海道大・函館高専名誉教授)

IV 事業費

事業費総額 約90,000千円

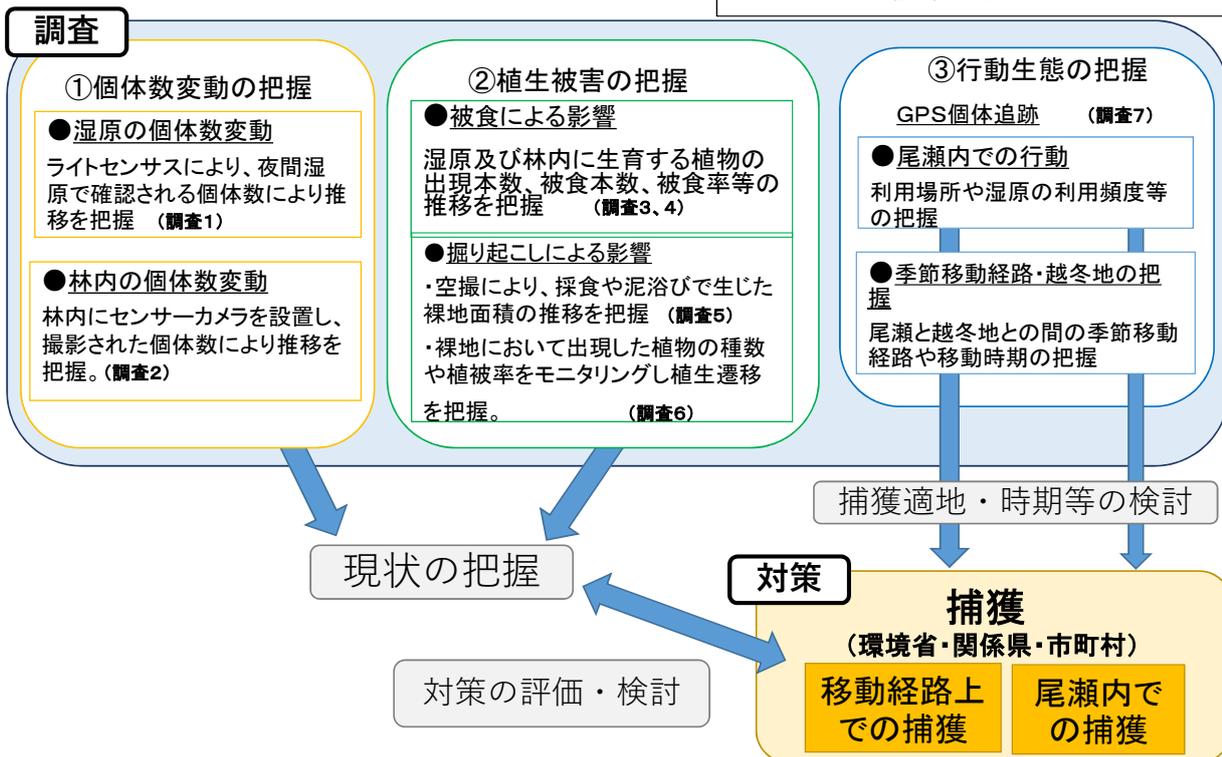
V 調査・研究・事業内容

- 1 基礎研究「尾瀬ヶ原及び周辺域における生物相と環境要因の目録調査」
 - ① 尾瀬ヶ原及び周辺域の植物相、動物相の構築
 - ② 尾瀬ヶ原と周辺山地の植生分布状態と環境の調査
 - ③ ニホンジカ侵入による尾瀬ヶ原の攪乱状態と回復過程の調査
 - ④ 尾瀬生態系の長期広域モニタリングシステム構築
 - ⑤ 社会科学的に見た尾瀬ヶ原の自然の価値調査
 - ⑥ 普及事業
 - ⑦ 上記事業の推進とまとめに関わる事務事業
- 2 重点研究「温暖化による山地湿原生態系変遷の将来予測と管理方策の検討」
 - ① 湿原地形と陸水環境の変遷の調査
 - ② 地下環境と地下水の挙動の調査
 - ③ 泥炭生態系の窒素代謝システムの調査
 - ④ 泥炭地のミネラル動態の調査
 - ⑤ 気候水文変動の調査
 - ⑥ 温暖化影響下の高地湿原生態系変遷の調査
 - ⑦ 上記事業の推進とまとめに関わる事務事業

平成28年度 尾瀬シカ対策について

関東地方環境事務所

尾瀬国立公園シカ管理方針 に基づく役割分担

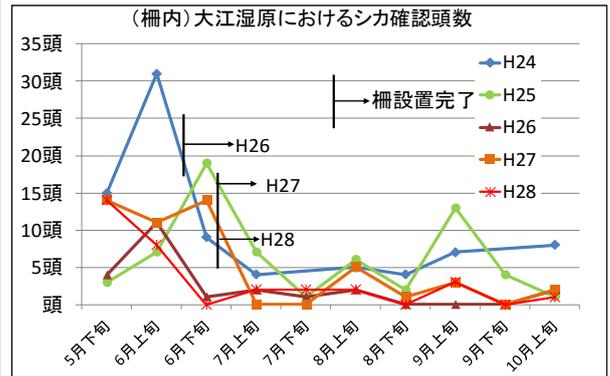
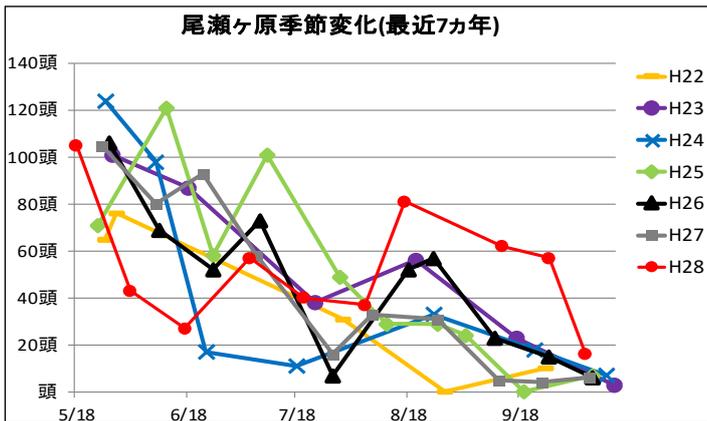
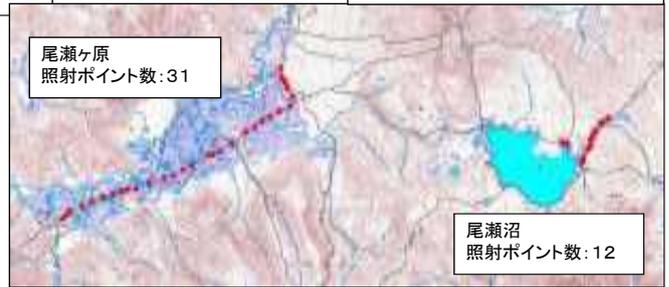


① 個体数変動の把握

ライトセンサス調査 (調査1)

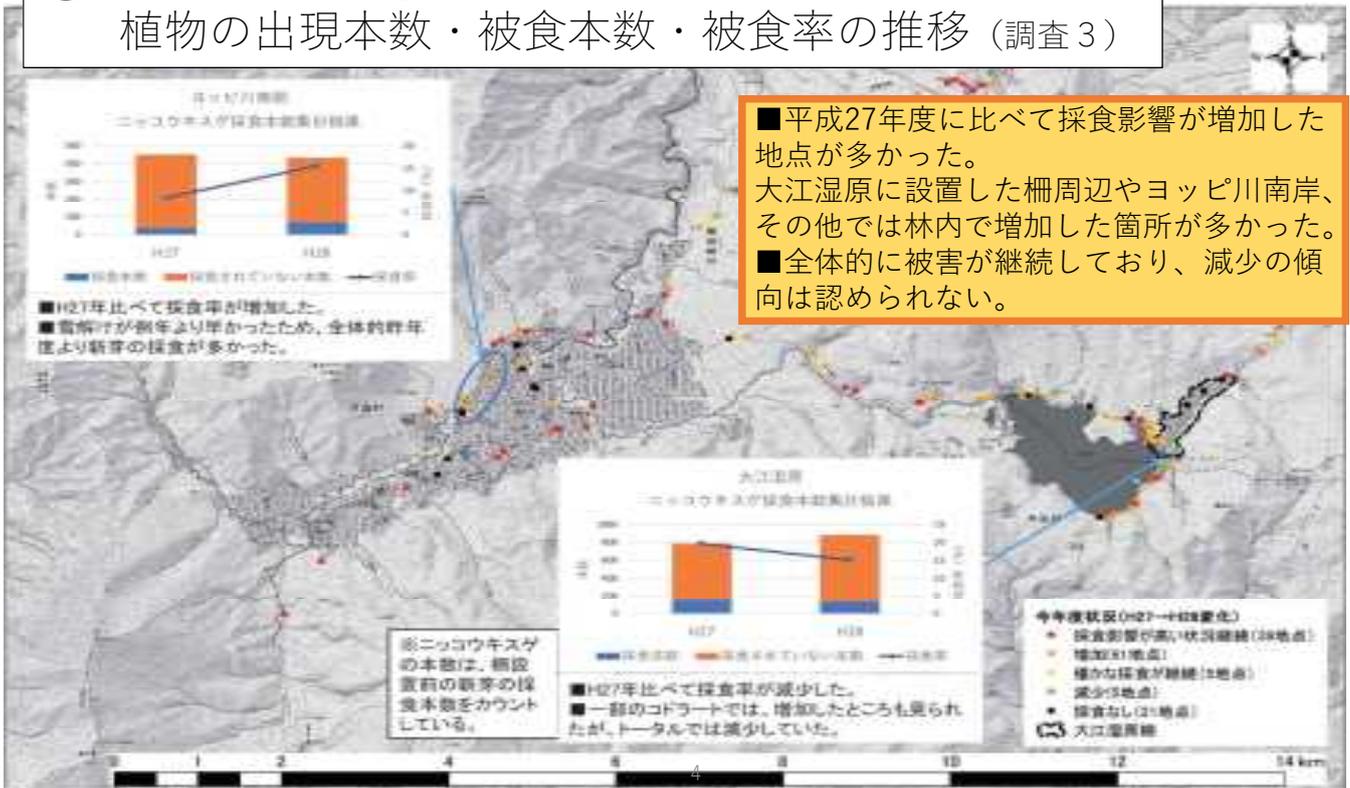
尾瀬に生息するシカ個体数は、増加傾向は見られていない。

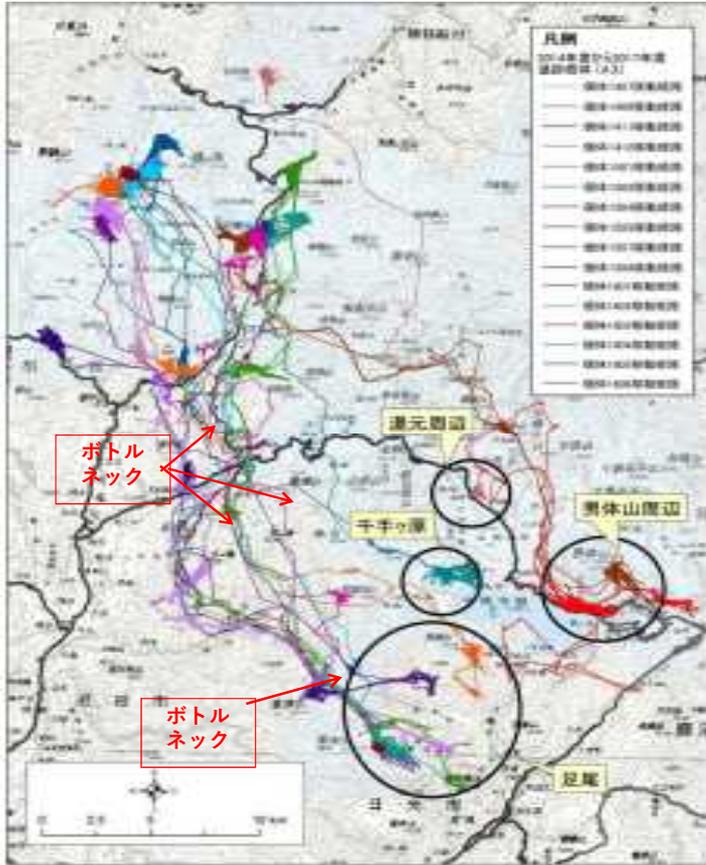
ビームライト照射ポイント位置



② 植生被害の把握

植物の出現本数・被食本数・被食率の推移 (調査3)





③行動生態の把握

(調査7)

●越冬地

- ・主な越冬地は日光の足尾地域
- ・夏を尾瀬で過ごした個体が奥日光の千手ヶ原や男体山で越冬する例も確認

●移動状況

- ・移動経路はこれまでと同様の傾向
- ・尾瀬ヶ原の個体の多くが大清水周辺と丸沼トンネルで道路を通過
- ・越冬地に向かう移動途中で20日以上滞在する「中継地」の存在が認められた

捕獲対策

H27年度～H28年度(速報値)					
番号	場所	手法	頭数	捕獲期間	実施主体
①	尾瀬ヶ原	銃器(忍び弾、特機射撃) ・くくり罠	19頭	2016/6/6～7/6	環境省
②	見晴	くくり罠	10頭	2016/6～	環境省
③	尾瀬沼	くくり罠	9頭	2016/6～	環境省
④	南会津町(磐岩地域) 檜枝岐村(全域)	追い込みネット・ 銃器・くくり罠	実施中	2016/9/2～	福島県
	南会津町(磐岩地域) 檜枝岐村(全域)	追い込みネット・ 銃器・くくり罠	実施中	2016/4/28～	南会津町 檜枝岐村
⑤	国道401号 線沿い	銃器・くくり罠 くくり罠	25頭 30頭	2015/11/21～2016/3/24 2016/10～	環境省 群馬県
⑥	国道120号 線沿い	くくり罠 銃器・くくり罠	75頭 28頭 31頭	2016/4/2～4/28 2016/10～2016/12 2016/10～	群馬県 群馬県 環境省
	片品村(全域)	銃器・くくり罠	実施中	2016/7～	片品村
⑦	白根山五色沼	くくり罠	10頭	2016/7	栃木県
⑧	戦場ヶ原	くくり罠 銃器(巻き狩り)	2頭 実施中	2016/7～/11 2017/1～3	環境省
⑨	千手ヶ原	モバイルカリング くくり罠 くくり罠・囲い罠	9頭 24頭 61頭	2016/4 2016/6 2016/10～/12	栃木県 栃木県 日光森林管理署
⑩	男体山周辺	銃器(巻き狩り)	43頭	2016/2/17～2/24	日光市
		受け式囲いわな	3頭	2016/1	
⑪	足尾	くくり罠 モバイルカリング 銃器(巻き狩り)	56頭 45頭 17頭	2016/1～/2 2016/1～/2 2016/2/21～3/6	栃木県 日光市



●目標 <H21.3 尾瀬国立公園シカ管理方針より>

長期目標：尾瀬からシカを排除

中期目標：尾瀬の生態系に対するシカの影響を低減

●現状

○捕獲対策を実施しているが、中期目標の「シカの影響を低減」傾向が見られておらず、このまま影響が継続する場合、近年中に消失する植生群落も示唆される。

○一方、他地域にみられるような広範囲において植生回復が不可能となるような急速な影響は生じていない。

●課題

- 一、 対策のための目標が不明確
- 二、 防除対策の効果がみえにくい状況

●検討事項

- 一、 どの程度までシカの影響から植生を保全すべきかの検討
- 二、 効果的・効率的な防除対策の検討

現状と 課題の整理

検討事項一、

どの程度までシカの影響から植生を保全すべきかの検討

植生保全に対する基本方針（案）

- 尾瀬固有の生態系（植生群落、希少種）の消失の防止
- 観光資源としての植生群落（ミズバショウ、ニッコウキスゲ群落）の消失の防止
- 裸地化、樹皮はぎ等、植生が回復不能な影響に対する防止（シカの影響を強く受けやすいエリアの保全）

検討事項二、

効果的・効率的な防除対策の検討

防除の基本方針（案）

- 現状の捕獲対策のみでは、植生被害の低減傾向は確認されず、被害は継続、拡大が懸念される。
- 基本方針の目標である「被害を低減」させるためには、捕獲対策の強化と、柵の設置による保全対策を進める必要がある。

尾瀬国立公園 標識ガイドライン（案）について

1. 本ガイドラインについて

1.1 目的と位置づけ

■目的

尾瀬国立公園は、首都圏に比較的近いことから年間約 30 万人の利用者がある一方で、公園内における案内標識や自然解説標識類の不足、近年の外国人利用者の増加にともなう、外国語標示による情報提供の不足が指摘されている。

本ガイドラインでは、公園内において、初めて訪れる人や外国人でも安全・快適に尾瀬を楽しむことができるとともに、尾瀬らしい良好な景観を維持・形成するために、公園内の標識類の整備にあたってのガイドラインを示したものである。

なお、本ガイドラインは、記載した標準例等への完全な準拠や、既設標識類の速やかな撤去・更新などを強制するものではない。

■位置づけ

本ガイドラインは、下記の指針及び計画書を上位計画とし、これらに記された標識類の設置や表示方法等に関する方針は原則として準拠する。

そのうえで、尾瀬エリアの標識類のもつ課題に対応するとともに、尾瀬特有の条件や“尾瀬らしさ”を加味し、統一化や標準化が望ましい事項をとりまとめている。

- ① 自然公園等施設技術指針〔第 3 部施設別技術指針第 7 章公共標識（サイン類）〕
（平成 25 年 7 月制定 平成 27 年 8 月改定 環境省 自然環境局自然環境整備担当参事官室）
- ② 尾瀬国立公園管理計画書（平成 25 年 8 月 環境省 関東地方環境事務所）

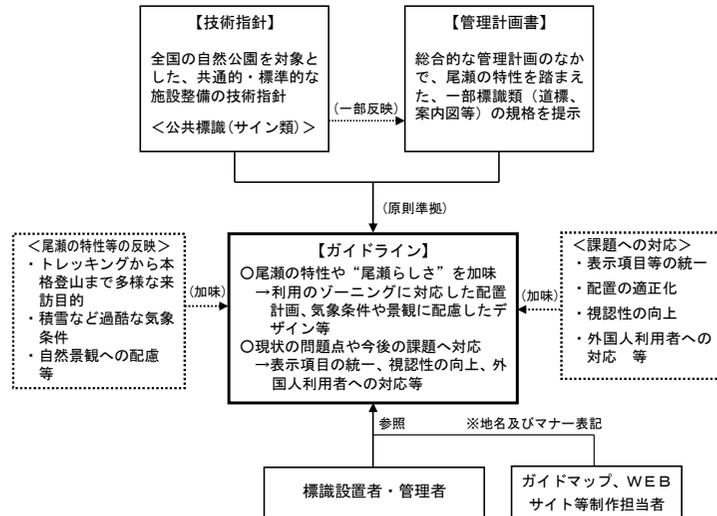


図 本ガイドラインの位置づけ

1.2 ガイドラインの適用範囲

■標識類の機能と役割分担

本ガイドラインでは、標識類の機能と外部媒体との役割分担について次のように考え、相互間で記載項目や用語などの統一を図り、連携しながら高い機能を発揮することを旨とする。

表 標識類の主な機能と役割分担の考え方

標識類の主な機能 (尾瀬国立公園内)	外部媒体の特性と役割分担	
	地図、パンフレット等 (紙媒体)	PC、タブレット、スマホ等(電子媒体)(注)
周知	・現在地や範囲の確認・識別 ・認識の高揚	・空間的、総合的な認知が可能 ・紙媒体よりも、多様で詳しい情報提供が可能
誘導	・目的地物への誘導	・通信環境に左右されない情報提供が可能 ・紙媒体よりも、更新が容易であり最新情報の提供が可能
情報提供	・地図等の情報の提供 ・資源解説 ・行事や工事予定等の提供	・多様で詳しい情報提供が可能 ・情報更新が容易
注意喚起	・禁止事項、マナー等の告知	・情報の事前入手 ・個人のニーズに合わせた個別的な情報提供 ・情報の事前入手 等

記載項目、用語等の統一を図り、両者の特性を活かしながら補完・連携する

注) リアルタイムでの情報取得は、現在尾瀬エリア内のほとんどが携帯電波不感地帯であるほか、バッテリー消費の問題などから一定の制限がある。

■適用範囲とする標識類

本ガイドラインでは、下表に示す標識類を対象とする。

表 対象とする標識類の区分と主な機能

		区分	主な機能
記名標識	入口標識	入口(記名)標識	・公園区域の明示、公園の周知
		一般標識(道路標識タイプ) デザイン標識	
	入口(情報)標識		
案内標識	公園名碑標識		・自然公園であることの認識の高揚 ・自然公園のシンボル、ランドマーク
	資源名標識		・施設、景観資源、地名の認知(確認や識別)
	誘導標識		・目的物への誘導
	案内図標識		・オリエンテーション(全体像の把握及び自己の存在位置の確認)
	総合案内標識		・各種利用情報の提供
	解説標識		・自然教育 ・自然解説や自然情報の提供
	注意標識		・事故防止 ・自然環境の保護 ・公序良俗の維持 ・利用規制の認知
	掲示板		・行事予定等の広報、ポスター掲示
	境界標識		・公園区域や管理地の明示

■適用範囲としない標識類

次に示すような標識・看板・掲示類は適用対象外とする。ただし、これらであっても、地名やマナー表記については、極力本ガイドラインに沿った記載となるよう協力を求める。

- ア 山小屋や休憩施設等が、利用者向けに自らの敷地内に設置するもの
- イ もっぱら管理目的に供されるもの（構造物の管理銘板、植生復元事業の表示板等）
- ウ 工事に伴う迂回路案内や緊急告知等、応急的、緊急的、仮設的な掲示

■外部媒体との連携に関する留意点

地名及びマナー表記については、尾瀬利用者が目にする機会が多い地図、ガイドマップ、パンフレット及びWEBサイト等のメディアにおいても、本ガイドラインに沿った記載となるよう積極的な活用を求める。

2. 基本方針

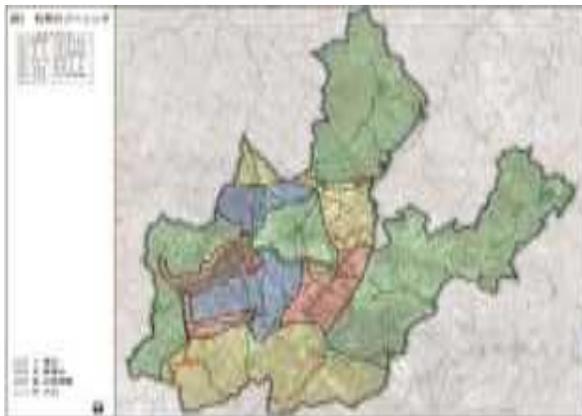
2.1 配置基準

■利用特性の反映

標識類の配置や表示項目・内容際しては、尾瀬国立公園管理計画に定められた4種類の「利用のゾーニング」を十分踏まえる。

表 「利用のゾーニング」と踏まえるべき特性

区分	踏まえるべき特性
I 登山エリア	至仏山、燧ヶ岳、会津駒ヶ岳等の本格的な登山を楽しむエリア。登山にふさわしい位置表示や、登山道の的確な誘導が求められる。
II 軽登山エリア	三条の滝や富士見峠周辺の、軽いトレッキングなどを楽しむエリア。尾瀬初心者なども気軽に訪れることができるため、的確な誘導はもとより、尾瀬の知識やマナーの周知などにも注力が必要。
III 山岳探勝エリア	尾瀬ヶ原や尾瀬沼周辺で、木道を散策しながら景観を楽しむエリア。様々な目的、経験、年代層の利用者が混在することから、目的地物へのきめ細かな誘導に加え、尾瀬の知識やマナーの周知に注力が必要。
IV 入山エリア	鳩待峠、大清水、御池などの入山口が含まれるエリア。尾瀬へのゲートウェイとして、尾瀬の全般的な情報提供を行うとともに、基本的なマナーの周知徹底を図ることが必要。



■配置方針

入山エリア（入山口）では、利用者動線に沿った地点に案内図や総合案内標識を配置し、尾瀬に関する基本的な知識、各種情報、マナー等が周知徹底されるよう留意する。

誘導標識は、分岐点に必ず配置するとともに、中間点においても、利用実態に応じて、適正な間隔で効果的に配置する。

注意やマナーを呼び掛ける標識は、入山口に掲示するとともに、各エリアにおいて、それぞれの資源や利用特性に合わせたものを掲示し、重ねて周知が図られるようにする。

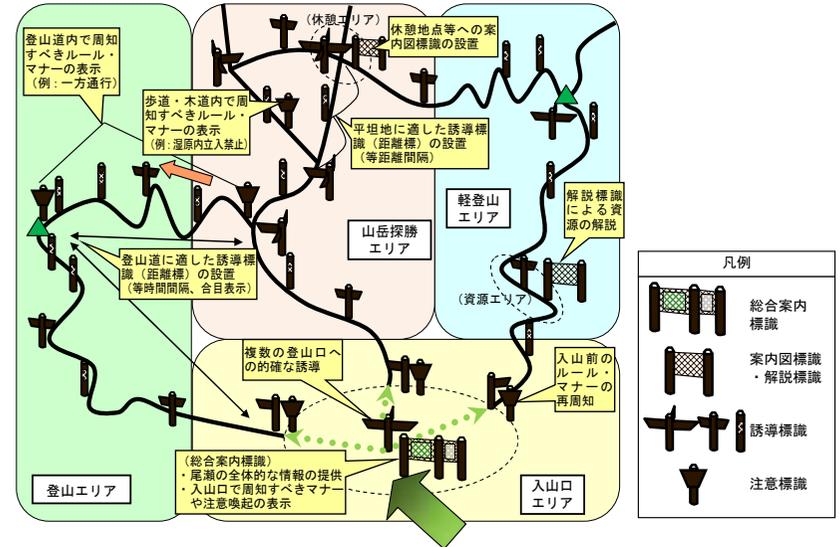


図 「利用のゾーニング」に基づく標識類の配置方針（イメージ）

表 エリアと配置すべき標識種類の対応

[凡例] ◎：機能的な重複に注意したうえで必ず設置 ○必要な場所に効果的に設置

標識	エリア	I 登山	II 軽登山	III 山岳探勝	IV 入山
記名標識	入口	○(登山口)	○(登山口)	—	◎
	入口(記名)標識	○(登山口)	○(登山口)	○(園地)	◎
	入口(情報)標識	○(登山口)	○(登山口)	○(園地)	◎
案内標識	公園名碑標識	○	○	○	○
	資源名標識	○	○	○	○
	誘導標識	○	○	○	○
	案内図標識	○	○	○	○
	総合案内標識	○	○	○	◎
	解説標識	○	○	○	◎
	注意標識	◎	◎	◎	◎
	掲示板	○	○	○	◎
境界標識	○	○	○	○	

2.2 表示項目

■地名・マナーの統一

日本語の用語や言い回し、併記する外国語及びピクトグラム（絵文字）等について、以下のように統一する。ただし、複数の読み方がなされている地名は、両者を併記するなどの対応を行う。

■外国人利用者への対応

地名、資源名、資源等の解説、マナー等については統一基準にしたがって外国語を併記するとともに、必要に応じてピクトグラムを活用するなど、直観的に理解しやすい表示方法を推進する。

併記する外国語は英語（ローマ字）を基本とし、マナーなど、特に周知が必要と判断される場合は、中国語（簡体字、繁体字）、韓国語等の必要な言語を選び併記すること。

原則として、地名、資源名等の固有名詞はすべて英語（ローマ字）を併記することとし、解説やマナーなどの文章については、必要に応じて簡略化したものを併記することが望ましい。

■統一基準

地名の用語及び英語訳の統一基準は次表のとおり。

表 地名表記の統一基準（案）

課題の分類	既存標識	環境省パンフレット	統一（案）
7) 地名標記	・会津駒ヶ岳 ・会津駒 ・駒ヶ岳	・会津駒ヶ岳 Mt. Aizu-Komagatake Aizukomagatake	・会津駒ヶ岳 Mt. Aizu-Komagatake
	・燧ヶ岳 ・燧 ・ひうちヶ岳	・燧ヶ岳 Mt. Hiuchigatake Hiuchigatake	・燧ヶ岳 Mt. Hiuchigatake
	・兎田代 ・ウサギ田代	・うさぎ田代 UsagiTashiro	・うさぎ田代 UsagiTashiro
	・三条ノ滝 ・三条の滝	・三条ノ滝 Sanjo Falls Sanjo-no Taki Falls Sanjonotaki Falls	・三条ノ滝 Sanjo Falls
4) 漢字相違	・小淵沢田代	・小淵沢田代 KobuchizawaTashiro	・小淵沢田代、小淵沢田代 KobuchizawaTashiro
5) 読み方相違	・沼尻	・沼尻 Numajiri, Nushiri	・沼尻 Numajiri, Nushiri
6) 英語表記	・至仏山 Shibutsusan	・至仏山 Mt. Shibutsu	・至仏山 Mt. Shibutsu

マナーの表現及び英語訳の統一基準は次表のとおり。

表 マナーに関する表現及びピクトグラムの統一基準（案）

分類	日本語	英語	ピクトグラム
ゴミ	・ゴミは持ち帰りましょう ・尾瀬にはゴミ箱はありません ・ゴミのポイ捨て、放置が規制されています	・Take your garbage home with you. ・There are no disposal points in Oze.	
植物	・花や植物を採らないでください ・移入植物の進入を防ぎましょう ・落ち葉や枯れ枝などを採取することも禁止されています	・Do not remove animals and plants. ・Prevent intrusion by alien species. ・Please do not use fallen branches as walking sticks or collect fallen leaves.	

表 マナーに関する表現及びピクトグラムの統一基準（案）（続き）

分類	日本語	英語	ピクトグラム
動物	・動植物の採取はやめましょう ・ペットは持ち込まない ・野生動物に餌をやらないうでください ・クマに自分の存在を知らせましょう	・Do not remove animals. ・Do not bring pets. ・Do not feed or approach wild animals. ・Use bear bells when walking to alert the bears to your presence.	
一般	・歩行中禁煙 ・たき火は指定の場所で行いましょう ・後に使う人のために清潔な利用を心掛けましょう	・No smoking while walking. ・Bonfires/recreational fires are only permitted in designated areas. ・Use public bathrooms appropriately.	 
登山（※注）	・湿原には立ち入らない ・木道や登山道から外れて湿原や登山道脇の植生に立ち入らないようにしましょう ・キャンプ場は指定されています ・携帯トイレを携行しましょう	・Do not step onto marshes. ・Do not stray from boardwalks or mountain trails. ・Observe designated camping area. ・Bring portable toilet facilities with you.	
汚染	・お金は投げ入れない ・山小屋の宿泊者には石けんやシャンプーの使用自粛の呼びかけを行い、水の汚れを抑えるための工夫もされています。	・Do not throw coins. ・asking people lodging in mountain facilities to show restraint with the use of soap and shampoo.	
設置環境別	・木道周辺、キャンプ場付近等の環境の変化のあるエリア別の統一表記を作成する等		
その他	・名称類別に統一されたピクトグラムを利用する等		

注）ストックキャップについて、同一歩道内（猿倉台倉高山線）において「ストックキャップ装着」や「キャップ無しのストック使用を控える」といった、言い回しが異なる事例がみられたので統一を図る。

表 注意喚起に関する表現及びピクトグラムの統一基準（案）

分類	日本語	英語	ピクトグラム
注意喚起	・この先は急なので注意してください ・急な雨天に備えた服装準備をしてください	・Steep terrain! Watch your step ・Caution!	 

マナーと注意喚起の統一基準を運用する際には、設置環境を踏まえるものとし、入山口と登山道・歩道内では、各々の環境に合った表示を行う。

入山口での表示例	登山道・歩道内での表示例
・ゴミのポイ捨て、放置が規制されています ・花や植物を採らないでください ・たき火は指定の場所で行いましょう 等	・ゴミを捨てないで下さい ・湿原には立ち入らない ・木道や登山道から外れない 等

2.3 形状・デザイン・設置場所

■環境に合致した素材、形状等の工夫と選定

雪圧による変形・損壊や、景観の阻害等の可能性を踏まえ、標準例に示す形状や素材等にこだわらず、耐久性、対候性に優れ、景観を損なわないデザインとする。

設置に際しては、視認性を確保しつつも景観を阻害することのないよう、設置場所の選定に配慮する。その際、その場所の気象条件や土壌環境について事前に調査し、標識の損壊の可能性及び自然環境への影響を極力抑えるよう配慮すること。

木道では、利用者の視線が下向きの狭い範囲に集中しやすいため、なるべく利用者の視界に入るような位置に設置するとともに、必要に応じて「プレート型」の併用も検討する。

2.4 構造、材料、書体等

次の各項目について、「3. 標識種類別の指針」に示されていないものについては、原則として、技術指針の「II-2-3 公共標識の構造・材料」に準拠する。

ア 標識本体及び表示面の構造、材料及び色彩

イ 標識表示の基本事項（外国語表記、文字のサイズ、フォント、色彩等）

ウ ユニバーサルデザインの配慮事項（表示方法、配置等）

3. 標識種類別の指針

3.1 記名標識

■入口標識

(1) 入口（記名）標識

ア 一般標識

配置	表示項目	形状・デザイン等
・ 国立公園境界に設置	必須 ・ 国立公園名（日本語及び英語） ・ 設置主体名	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な表示面デザイン及び色彩は、技術指針に準拠 （表示面及び支柱：こげ茶色） アイキャッチ：暗緑色 形状は、設置場所の周辺環境に応じて最適なものを選択 （路側式、オーバーハング式）
	選択 ・ 地点名 ・ ロゴマーク ・ 標識番号	
標準表示例及び寸法例		標準形状に近い実例
		 （会津駒ヶ岳登山口標識）

イ デザイン標識

配置	表示項目	形状・デザイン等
・ 入口等に設置	必須 ・ 国立公園名（日本語及び英語） ・ 設置主体名	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な表示面デザイン及び色彩は、技術指針に準拠 （表示面、支柱ともにこげ茶色） 形状は、設置場所の周辺環境に応じて最適なものを選択 （シンプル型、モニュメント型）
	選択 ・ 指定年 ・ ロゴマーク	
標準表示例及び寸法例		「モニュメント型」イメージ
		 （田代山・帝釈山登山口標識）
		 出典：自然公園等施設技術指針（環境省）「第3部施設別技術指針 第7章公共標識」

(2) 入口（情報）標識

配置	表示項目	形状・デザイン等
・ 入口（記名）標識とペアとなる場所において、必要に応じて設置	必須 ・ 設置主体名	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な表示面デザイン及び色彩は、技術指針に準拠 （表示面、支柱ともにこげ茶色） 形状は、設置場所の周辺環境に応じて最適なものを選択 （壁面、寄棟、切妻屋根等）
	選択 ・ 自然公園の見所 ・ 自然災害等の安全に係る情報 ・ 上記の外国語（英語基本、必要に応じて中国語、韓国語等） ・ シンボルマーク ・ 標識番号等	
整備イメージ（整備事例）		
※案内図、公園利用マナー掲示、誘導標識等を一体的に整備した事例 （中部山岳国立公園 上高地集団施設地区）		
出典：自然公園等施設技術指針（環境省）「第3部施設別技術指針 第7章公共標識」		

■公園名碑標識

配置	表示項目	形状・デザイン等
・ 主な利用拠点、景観等に優れた場所等において、必要に応じて設置	必須 ・ 施設名（日本語及び英語） ・ 設置主体名	<ul style="list-style-type: none"> 形状、デザインは“尾瀬らしさ”を反映するよう配慮 色彩は、派手にならないよう、景観に配慮して選定
	選択 ・ シンボルマーク ・ 標識番号	
整備イメージ（整備事例）		
※公園名碑標識の整備事例 （霧島錦江湾国立公園 重富海岸）		
出典：自然公園等施設技術指針（環境省）「第3部施設別技術指針 第7章公共標識」		

■資源名標識

配置	表示項目	形状・デザイン等
<ul style="list-style-type: none"> 尾瀬の魅力向上、回遊性向上が期待される資源において、必要に応じて設置 木道周辺においては、必要に応じてプレート型を併用 	必須 <ul style="list-style-type: none"> 資源名（日本語及び英語） 設置主体名 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な形状は単柱型とし、必要に応じてプレート型を併用 基本的な表示面デザイン及び色彩は、管理計画書に準拠（表示面及び支柱はこげ茶色） プレート型は視認性に配慮
	選択 <ul style="list-style-type: none"> 資源に関する簡易な補足説明（英語併記が望ましい） ロゴマーク 標識番号 	
標準表示例及び寸法例		標準形状に近い実例及びプレート型実例
		(道標併記型) (単柱型) (プレート型)  (左から「横田代」、「沼尻川」、「竜宮現象伏流点」の資源名標識)

■案内図標識

配置	表示項目	形状・デザイン等
<ul style="list-style-type: none"> 行動起点、特定のエリアの入口及び経路の分岐点・中間点等について、必要に応じて設置 	必須 <ul style="list-style-type: none"> 施設名等（日本語及び英語） 注意・マナー（日本語及び英語） 主要施設、マナー等のピクトグラム 設置主体名 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な形状、表示面デザインは、技術指針に準拠 支柱の色彩は、原則としてこげ茶色を基本
	選択 <ul style="list-style-type: none"> ロゴマーク 標識番号 	
標準表示例及び寸法例		マナー等の表示例
		 (公園概要) (マナー一覧) (入山注意事項)

3.2 案内標識

■誘導標識

配置	表示項目	形状・デザイン等
<ul style="list-style-type: none"> 分岐点にすべて設置 分岐点間においては、次を目安に設置 <ul style="list-style-type: none"> ●登山エリアは1時間毎程度とし、「合目」表示の併用可 ●山岳探勝エリアは概ね1km毎、それ以外のエリアは利用実態に応じて2～3km毎 木道においては、必要に応じてプレート型を併用 	必須 <ul style="list-style-type: none"> 目的地名（日本語及び英語） 距離 設置主体名 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な表示面デザイン及び色彩は、管理計画書に準拠（表示面及び支柱はこげ茶色） 形状は、設置場所の周辺環境に応じて最適なものを選択（腕木型、単柱型） プレート型は視認性に配慮
	選択 <ul style="list-style-type: none"> 資源名（地点名） 合目（登山エリア） ロゴマーク 標識番号 	
標準表示例及び寸法例		標準形状に近い実例
		 (左：腕木型、右：単柱型) ※単柱型は資源名併記

■総合案内標識

配置	表示項目	形状・デザイン等
<ul style="list-style-type: none"> すべての人が利用できる、区域内の行動起点及び情報拠点等について、必要に応じて設置 	必須 <ul style="list-style-type: none"> 施設名等（日本語及び英語） 地域、自然資源等の状況（日本語及び必要に応じて英語併記） 注意、マナー（日本語、英語、ピクトグラム） ※必要に応じて中国語、韓国語等を併記 設置主体名 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な形状、表示面デザインは、技術指針に準拠 支柱の色彩は、原則としてこげ茶色を基本
	選択 <ul style="list-style-type: none"> ロゴマーク 標識番号 	
標準表示例及び寸法例		標準形状に近い実例
		 (猿倉登山口の総合案内標識)

■解説標識

配置	表示項目	形状・デザイン等
<ul style="list-style-type: none"> ・動植物のほか、景観の優れた場所等に設置 ・板面が大きいものは景観に配慮した設置場所を選定 	必須 <ul style="list-style-type: none"> ・解説情報（日本語及び英語） ・設置主体名 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術指針や管理計画書との整合性に配慮しつつ、解説対象に応じた形状やデザインを選定 ・支柱の色彩は、原則としてこげ茶色を基本
	選択 <ul style="list-style-type: none"> ・図、写真 ・ロゴマーク ・標識番号 	
標準表示例及び寸法例		尾瀬における設置例
		  <p>(左：資源ごとに設置する小型標識、右：大型の総合解説標識)</p>  <p>(資源分布を示す地図を併用した学術的な解説)</p>

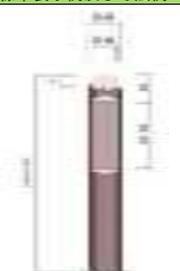
■揭示板

配置	表示項目	形状・デザイン等
<ul style="list-style-type: none"> ・園地や通行量の多い歩道の休憩地点等において、必要に応じて設置 	必須 <ul style="list-style-type: none"> ・尾瀬ならではのリアルタイム性の高い情報や、緊急に周知が必要な事項を中心に揭示（例：開花情報、歩道の残雪や通行止め情報、クマ出没情報等） ・設置主体名 	<ul style="list-style-type: none"> ・形状は、現在設置済みの形態を踏まえ、技術指針の『入口（記名）標識（デザインタイプ）』や、案内図標識に準拠 ・支柱の色彩は、こげ茶色を基本 ・表示面は白など明度の高い色は避け、木材の地色を活かすなど、落ち着いた色彩となるよう配慮
	選択 <ul style="list-style-type: none"> ・ロゴマーク ・標識番号 	
標準表示例及び寸法例		標準形状に近い実例
		 <p>(御池登山口の揭示板)</p>

■注意標識

配置	表示項目	形状・デザイン等
<ul style="list-style-type: none"> ・行動起点（入山口、園地等）や、移動中に注意喚起が必要な地点等、管理上必要な地点に設置 	必須 <ul style="list-style-type: none"> ・注意、マナー（日本語、英語、ピクトグラム） ※必要に応じて中国語、韓国語等を併記 ・設置主体名 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術指針や管理計画書との整合性に配慮しつつ、注意対象に応じた形状やデザインを選定 ・支柱の色彩は、原則としてこげ茶色を基本
	選択 <ul style="list-style-type: none"> ・ロゴマーク ・標識番号 	
標準表示例及び寸法例		尾瀬における設置例
		  <p>(左：日本語、英語、中国語、韓国語及びピクトグラムを併記したもの、右：ピクトグラムを主体として表示したもの)</p>

■境界標識

配置	表示項目	形状・デザイン等
<ul style="list-style-type: none"> ・管理上必要な地点に設置 	必須 <ul style="list-style-type: none"> ・国立公園名、管理地名等（日本語及び英語） ・設置主体名 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な表示面デザイン及び色彩は、技術指針に準拠 〔表示面及び支柱：こげ茶色〕 アイキャッチ：暗緑色 ・形状は、設置場所の周辺環境に応じて最適なものを選択（路側式、オーバーハング式）
	選択 <ul style="list-style-type: none"> ・特別保護区 ・標識番号 	
標準表示例及び寸法例		整備イメージ
		 <p>出典：自然公園等施設技術指針（環境省） 「第3部施設別技術指針 第7章公共標識」</p>

3.3 プレート型標識

■設置の背景と設置条件

既存の老朽化した標識類を更新する際、景観を阻害せず、湿原であっても設置場所の自由度が高い、利用者の視線が木道に行きやすいといった、尾瀬の環境にふさわしい手法として、尾瀬ヶ原周辺等の木道を中心に導入。きめ細かな設置が可能。

表示項目等、本ガイドラインで規定する最低限の基準を満足すれば、看板形式の標識類の設置が困難又は不適切な場合等において設置を検討すべきもの。



■標準デザイン及び設置方法

(1) 標準デザイン

現行のものに準拠するが、文字数が多くなる誘導標識についての判読性の向上や外国人利用者への対応が必要。

(2) 設置方法

現状どおり、木道の中間の横桁等、歩行に支障しない場所に設置する。
なお、サイズが小さく見落とされやすいことから、誘導標識として使用する場合はプレート型単独では設置せず、必ず本体標識とセットで設置する。

4. 維持管理に関する指針

4.1 設置者・管理者の責務

標識類を設置する場合は、本ガイドラインならびに技術指針、管理計画書等に記載された標準例や注意点を十分参考にするとともに、必要に応じて環境省の意見を聞き、これらに準拠した標識類を作成・設置するものとする。その際は、必ず設置主体名を明記する。

既設の標識類が汚損、劣化し、更新する場合も同様である。

4.2 撤去・更新・新設の時期と方法

汚損、劣化、破損した標識類は美観を損ねるほか、利用者の誤認を誘発し、事故や遭難につながる危険性があるため、速やかに撤去するよう心がけること。

4.3 関係者の相互協力体制

尾瀬国立公園に関わる主体においては、相互の連携と協力体制を強化し、これらの課題に取り組んでいくことが望まれる。

例えば、類似した標識類はまとめて1箇所に整備することにより、費用負担や設置の労力を低減することが可能である。

また、標識のナンバリングを行うとともに共通の管理台帳を作成し、設置場所等の情報を関係者全員で共有することにより、汚損や破損した標識類の早期発見が可能となるほか、緊急対応時に場所の特定が迅速かつ効率的に行えるなど、尾瀬利用者の満足度と安全性を高めることができる。

尾瀬国立公園協議会等の場を活用して関係者が標識類に関する意識を共有し、相互協力体制を築いていくことが必要である。

■今後の課題

- ・標識のナンバリング等により複数の主体間にわたる情報の共有化が迅速・確実に行われるよう配慮し、維持管理のみならず緊急時の対応の容易化も図ることを検討。
- ・尾瀬の脆弱な地質や積雪状況を考慮した設計や施工方法の検討
- ・時代に応じたマナー表記の追加（利用者層や通信環境の変化など）
- ・ガイドマップ等を含めた分岐点名称の統一及び無名分岐点への名称付与

	日本語	日本語(読み)	英語
1	赤穂駒ヶ岳	あいつこまがたけ	Mt. Aizu-Komagatake
2	赤城山	あかぎさん・あかぎやま	Mt. Akagisan
3	赤田	あかたけやま	Mt. Akasawayama
4	赤平カシノ	あかたしろ	Akatashiro
5	赤平カシノ	あかひなれさわ	Akanaruresawa
6	赤平カシノ	あかひなれだけ	Mt. Akanaguredake
7	阿賀野川	あかのがわ	Aga no River
8	赤安山	あかやすやま	Mt. Akayasu
9	赤安田代	あかやすたしろ	Akayasu-Tashiro
10	漆湖温泉	あさみづけん	Azami Marsh
11	千ヶ平	あやめだいら	Ayamedara Marsh
12	柳瀬沢	いけのさわ	I-no-zawa
13	一ノ瀬	いけのだけ	Mt. Ikenodake
14	一ノ瀬休憩所	いちのせ	Ichinose
15	一ノ瀬カシノ	いちのせきゆいけいじよ	Ichinose Resthouse
16	岩清水	いしづきさわ	Ishidomizawa
17	岩沼市	いわしのみず	Iwashimizu
18	岩沼市	うさぎたしろ	Uonuma City
19	岩田代	うさぎたしろ	Usagi Tashiro
20	岩田代分岐	うさぎたしろさんき	Usagitashiro Branching Point
21	牛首	うしくび	Ushikubi
22	牛首分岐(尾瀬ヶ原三叉)	うしくびさんき	Ushikubi Branching Point
23	黒法師	うすあらいさち	Umarabuchi
24	黒法師	うすさかどろげ	Umasaka Toge Pass
25	妻籠橋	つまのりばし	Urahuchi Bridge
26	上田代(磯峯林道)	うわたしろ	Uwatashiro
27	大江温泉	おおえしづけん	Oe Marsh
28	大江川温泉	おおえがわしづけん	Oegawa Marsh
29	大江山	おおえやま	Mt. Oe
30	大清水	おおしみず	Oshimizu
31	大清水休憩所	おおしみずきゆいけいじよ	Oshimizu Resthouse
32	大清水小屋	おおしみずこや	Oshimizu-goya Lodge
33	大清水温泉	おおしみずしづけん	Oshimizu Marsh
34	大清水平	おおしみずたいし	Oshimizudera
35	大清水橋	おおしみずばし	Oshimizu Bridge
36	大杉岳	おおすぎだけ	Mt. Ousugidake
37	大津殿峠	おおつまたたけ	Osumata Toge Pass
38	大津殿山	おおつまたやま	Mt. Osumata
39	大畑川	おおひつりがわ	Ohori River
40	奥鬼怒森林道	おくきぬりんどう	Okukinu Pass
41	奥只見湖	おくだけみこ	Lake Okutadami
42	奥只見小出町	おくだけみこいでまち	Okutadami-Koide Town
43	大戸沢山	おおたけやま	Mt. Oosawa
44	奥只見湖	おおくねこ	Lake Okutone
45	尾瀬国立公園	おせこくにこうえん	Oze National Park
46	尾瀬小屋	おせこや	Oze-goya Lodge
47	尾瀬沼	おせぬま	Ozenuma Swamp
48	尾瀬沼群	おせぬまぼん	Ozenuma Swamp Side
49	尾瀬ヶ原	おせがはら	Ozegahara
50	尾瀬ヶ原温泉	おせがはらおんせん	Ozegahara Onsen
51	尾瀬沼	おせぬま	Ozenuma Swamp
52	尾瀬沼本郷所	おせぬまきゆいけいじよ	Ozenuma Resthouse
53	尾瀬沼キヤンプ場	おせぬまきやんぷじょう	Ozenuma Campsite
54	尾瀬沼山荘	おせぬまさんぢやう	Eastside of Ozenuma
55	尾瀬沼山荘	おせぬまさんぢやう	Ozenuma sanso Lodge
56	尾瀬沼びじターゼンター	おせぬまびじターゼんたー	Ozenuma Visitor Center
57	尾瀬沼群	おせぬまぼん	Ozenuma Swamp Side
58	尾瀬沼ロッジ	おせぬまほりやうて	Ozenuma Hutte
59	尾瀬沼北郷道	おせぬまほくがうどう	Northside Pass of Ozenuma
60	尾瀬ロッジの森ミュージアム	おせぬまのもりがけミュージあむ	Oze Buranonomori Museum
61	尾瀬ロッジ	おせろじ	Oze Lodge
62	小田代	おたしろ	Odashiro
63	オヤマ沢田	おやまさわ	Oyamazawa
64	オヤマ沢田代	おやまさわたしろ	Oyamazawatashiro
65	温泉小屋	おんせんこや	Onsen-goya Lodge
66	温泉ヶ岳	おんせんがけ	Mt. Onsengetake
67	オヤマツシ	おんたし	Oshidashi
68	女石岳	おんないしだいら	Onnaishidaira
69	空ヶ岳	かさかたけ	Mt. Kasagatake
70	空ヶ岳分岐	かさかたけさんき	Kasagatake Branching Point
71	片品村	かたしなむら	Katashina Village
72	片品川	かたしながわ	Katashina River
73	片品温泉	かたしなおんせん	Katashina Onsen
74	片藤沼	かたふじぬま	Katafujii Swamp
75	釜ヶ堀	かまづぼり	Kamapouri
76	上田代(尾瀬ヶ原)	かみたしろ	Kamitashiro
77	上ヶ大畑川	かみのおおひつり	Kamino-Ohori
78	上ヶ子	かみこ	Kamino-Ohori River
79	鷹沢山	かみさね	Kamyonoko
80	川上川	かみさねがわ	Mt. Karasawa
81	川衣ヶト	かわかきがわ	Kawakami River
82	川衣ヶト	かわこもけーと	Koromogawa Gate
83	奥霧彦	きぬぬま	Kinunuma Marsh
84	奥霧彦	きぬたき	Kinutaki Falls
85	奥霧彦温泉橋	きぬぬましづけんたきたん	Southside of Kinunuma Marsh
86	奥霧彦霊視小屋	きぬぬましゆいけんこや	Kinunuma Patrol Hut
87	奥霧沼山	きぬぬまやま	Mt. Kinunuma
88	キリンテ	きりんて	Kirin-te
89	キリンテ沢	きりんてさわ	Kirin-tezawa
90	銀山湖	ぎんざんこ	Lake Ginzan
91	銀山平	ぎんざんたいし	Ginzandaira
92	金精山	こんせいざん	Mt. Korsei
93	熊沢田代	<熊沢わたしろ	Kumazawa-Tashiro Marsh
94	熊沢村	<りやまむら	Kunoyama Village
95	熊沼田代	<くまぬまたしろ	Kuronumatashiro
96	黒岩山	<くろいわやま	Mt. Kuroiwa
97	黒鶴山	けいづるやま	Mt. Keizuru
98	小出	こいで	Koide
99	弘法大師堂(田代山遊覧小屋)	こうぼうだいしどう	Ko-bo-Daishido
100	弘法沼	こうぼうぬま	Ko-bou Swamp
101	小笠	かさ	Mt. Kagasa
102	小笠山	こさたけ	Kozodaira
103	駒止温泉	こまどしづけん	Mt. Koshibutsu
104	駒止温泉	こまどしづけん	Komado Marsh
105	小沼	こぬま	Konuma Pond

地名一覧表(日本語・英語)

	日本語	日本語(読み)	英語
106	小沼温泉	こぬまじつせん	Konuma Marsh
107	小淵沢田代	こぶちざわたしろ	Kobuchizawa Tashiro
108	駒ヶ岳釜山口	こまがたけだんぐち	Komagatake Trailhead
109	駒ヶ小屋	こまのこや	Komano-Koya Lodge
110	駒ヶ小屋	こまのこや	Komano-Koya Lodge
111	駒ヶ小屋	こまのこや	Komano-Koya Lodge
112	逆さ滝	さかさまたき	Sakasataki
113	獲倉	とくくら	Sankura
114	皿伏山	さらふせやま	Mr. Sarabuse
115	皿伏山分岐	さらふせやまぶんぎ	Sarabuseyama Branching Point
116	三架ノ滝	さんかすのたき	Sanjo Falls
117	三架ノ滝展望台	さんかすのたけらんぼうだい	Sanjo Falls Observatory
118	三架ノ滝分岐	さんかすのたけぶんぎ	Sanjo Falls Branching Point
119	三段田代	さんだんたしろ	Sandantashiro
120	山頂分岐	さんとうぶんぎ	Sancho Branching Point
121	三平峠	さんへいとうげ	SampeI-shtta
122	三平橋	さんへいばし	SampeI Toge Pass
123	梁安橋	しほやすはし	Sampel Bridge
124	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
125	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
126	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
127	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
128	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
129	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
130	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
131	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
132	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
133	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
134	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
135	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
136	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
137	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
138	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
139	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
140	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
141	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
142	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
143	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
144	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
145	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
146	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
147	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
148	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
149	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
150	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
151	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
152	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
153	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
154	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
155	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
156	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
157	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
158	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
159	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
160	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
161	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
162	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
163	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
164	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
165	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
166	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
167	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
168	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
169	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
170	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
171	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
172	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
173	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
174	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
175	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
176	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
177	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
178	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
179	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
180	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
181	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
182	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
183	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
184	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
185	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
186	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
187	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
188	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
189	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
190	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
191	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
192	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
193	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
194	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
195	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
196	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
197	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
198	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
199	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
200	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
201	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
202	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
203	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
204	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
205	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
206	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
207	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
208	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
209	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
210	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura
211	梁安橋	しほやすはし	Shibayasuura

地名一覧表(日本語・英語)

	日本語	日本語(読み)	英語
212	日光白根山	にっこうしろねさん	Mt. Nikko-Shirane
213	沼尻	ぬまじり、ぬしり	Numajiri/Nushiri
214	沼原山	ぬまじりがわ、ぬしりがわ	Numajiri/Nushiri River
215	沼尻本願所	ぬまじりきゆうけいじま、ぬしりきゆうけいじま	Numajiri/Nushiri Reashouse
216	沼尻平	ぬまじりだいら、ぬしりだいら	Numajiri/Nushiri daira
217	沼田街道	ぬまじりかみちう	Numata Kado mountain trail
218	沼山峠	ぬまやまごうけ	Numayama-toge
219			Namayama Toge Pass
220	沼山峠本願所	ぬまやまごうけきゆうけいじま	Numayama Toge Pass Reashouse
221	沼山峠展望台	ぬまやまごうけてんぼうだい	Numayama Toge Pass Viewing Place
222	沼山峠ハグ亭	ぬまやまごうけはすてい	Numayama-toge Bus stop
223	猫又川	ねこまたがわ	Nekomata River
224	ノリ田代	のりたしろ	Nometashiro
225	八海山	はっかいさん	Mt. Hakkai
226	榎澤山	はくまじりやま	Mt. Hakamazoshi
227	榎待峠	はくまじりたうげ	Hakomachitoge
228	榎待廻り	はくまじりめぐり	Hakomachi Tori
229	榎待山荘	はくまじりさんそう	Hakomachi-sanso Lodge
230	原の川上川	はらのかわかみがわ	Haranokawakami River
231	原の小屋	はらのこや	Haranomata Koya Lodge
232	原舟岩(ノカゲ岩)	はらふいいわ	Haranawa
233	燧森森林道	ひつちうらりんどう	Hicuchi-ura Rindo mountain trail
234	燧初ノ岳	ひつちうりんどう	Hicuchura shindo mountain trail
235	燧ノ岳	ひつちうたけ	Mt. Huchigatake
236	燧小屋	ひつちうこや	Hicuchi-goya Lodge
237	真田代	ひつちたしろ	Higashitashiro
238	榎高山	ひのきたかやま	Mt. Hinokitakayama
239	榎枝岐	ひのえだま	Hinoenata Village
240	榎枝岐小屋	ひのえまじりこや	Hinoenata-koya Lodge
241	榎枝岐温泉	ひのえまじりおんせん	Hinoenata Onsen
242	姫田代	ひめたしろ	Himetashiro
243	平ヶ岳	ひらたけ	Mt. Hiragatake
244	平ヶヶノ滝	ひらたけのたき	Hiraname Falls
245			Hiraname-ro Taki Falls
246	平落ノ滝展望台	ひらたけのたきてんぼうだい	Hiraname Falls Viewing Place
247	広糸田代	ひろいとたしろ	Hirosawa Tashiro
248	富士山	ふじさん	Mt. Fuji
249	富士見小屋	ふしみこや	Fujimi Lodge
250	富士見下	ふしみした	Fujimishita
251	富士見田代	ふしみたしろ	Fujimitashiro
252	富士見峠	ふしみたうげ	Fujimitoge
253	ノトロ田代	ふでろたしろ	Futororotashiro
254	櫛平	ふぢたいら	Buradaira
255	分岐点	ぶんきてん	Branching Point
256	武尊山	むすねやま	Mt. Hotaka
257	掘田代	ほったしろ	Hoktashiro
258	巨土心丸橋	ほとこむしり	Hodokujibo Bridge
259	曲田代	まがりがたしろ	Megaritashiro
260	刈岳	まひやくら	Manatagura
261	刈坂堂	まひやくらだち	Manatagura
262	丸ノ沼	まるぬま	Maruyama Marsh
263	丸山高原	まるやまごうげん	Maruyama Highlands
264	御池	みいけ	Mike
265	御池岳	みいけたけ	Mt. Miketake
266	御池田代	みいけたしろ	Mike Tashiro
267	御池コソ	みいけこし	Mike Lodge
268	水上温泉	みづかみおんせん	Minakami Onsen
269	水場	みずば	Mizuba
270	三ヶ峰	みつがみね	Mitsugamine Peak
271	みなかみ町	みなかみまち	Minakami Town
272	鹿委達町	かゐだち	Mimamizu Town
273	ミゾチ岳	みのすぢたけ	Mt. Mizochidake
274	奥騨(下田代十字路)	みほし	Miharashi
275	尾騨キャンプ場	みほしきやんぷじよう	Miharashi Camping Site
276	尾騨新道分岐	みほししんどう	Miharashi Shindo mountain trail
277	尾騨新道分岐	みほししんどうぶんぎ	Miharashi Shindo Branching Point
278	ツツ田代	つつたしろ	Mekketashiro
279	ツツハツ田代	つとろはつたしろ	Merappashitashiro
280	ツツハツ荘	つとろさんそう	Motoyu-sanso Lodge
281	物見小屋	ものみやこや	Monomi-goya Lodge
282	物見山	ものみやま	Mt. Monomi
283	モーカケノ滝	まーかけのたき	Mokake Falls
284	八木沢	やぎさわ	Yagisawa
285	八木沢橋	やぎさわはし	Yagisawa Bridge
286	八木沢温泉	やぎさわしづけん	Yagisawa Marsh
287	八木沢新道	やぎさわしんどう	Yagisawa Shindo mountain trail
288	八木沢新道	やぎさわしんどう	Yashiro Lodge
289	強四郎小屋	やしろこや	Yashiro-goya Lodge
290	山ノ鼻	やまのびな	Yamanobina
291	山の鼻小屋	やまのびなこや	Yamanobina-goya Lodge
292	尾瀬山の鼻(ジターセンター)	おせやまのびなびたーせんたー	Oze Yamanobina Visitor Center
293	山ノ鼻キャンプ場	やまのびなきやんぷじよう	Yamanobina Campsite
294	湯沢	ゆさわ	Yuzawa
295	田代	たしろ	Yashiro
296	湯ノ小屋	ゆのこや	Yunokoya
297	橋田代(鳩待通り)	はしだしろ	Yokotashiro
298	橋田代(燧森林道)	はしたしろ	Yokotashiro
299	与作岳	よさくたけ	Mt. Yosaku
300	ヨツバ田代	よつばたしろ	Yoshinopori Tashiro
301	ヨツバ川	よつばがわ	Yoppi River
302	ヨツバ吊橋	よつぱりはし	Yoppi Bridge
303	ヨツバ橋	よつぱりはし	Yoppi Bridge
304	重葎	うゑぐさ	Ryugu
305	龍宮小屋	りゆうぐさこや	Ryugu-goya Lodge
306	龍宮十字路	りゆうぐさじゆうじろ	Ryugu Jijiro crossroad
307	竜宮公衆トイレ	りゆうぐさこうじゆうといれ	Ryugu Public Toilet
308	竜宮尻	りゆうぐさじり	Ryugujiri
309	大兵衛屋	おおへいゑ	Rokubeebori
310	悪沢岳	わるさわだけ	Mt. Wanusawadake